

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320110

研究課題名（和文） 近世後期から近代初期に形成された知識人ネットワークに関する基礎研究

研究課題名（英文） Basic Study on the Intellectual Network Formed between Late Early Modern Times and the Beginning of Modern Times

研究代表者

笹木 義友（SASAKI YOSHITOMO）

北海道開拓記念館・学芸部・研究員

研究者番号：50132832

研究代表者の専門分野：人文地理学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世史

### 1. 研究計画の概要

(1)研究目的：幕末の「北方探検家」として著名な松浦武四郎（1818～1888、現三重県松阪市出身）に焦点をあてて、近世後期から近代初期に形成された知識人ネットワークの具体相とその特質を明らかにすることを目的とする。また、調査・研究の対象として想定される歴史資料は、武四郎が多様な人的交流のなかでやりとりした書状や書画骨董、自筆写本を中心とする旧蔵書、アイヌ民族資料などであるが、いまだほとんど活用されていない資料も多く、かつ未公表の資料の発掘も数多く想定されることから、それらの歴史資料を集積し、文字資料のデジタル化を図り、これらのデータベースを構築し、広く活用の途を拓くことも目的とする。

(2)調査方法：最も重要なことは、幅広い交友関係を有した松浦武四郎に関する資料の発掘である。調査対象としては、武四郎が交友を持ったことが判明している志士・幕臣・学者・文人などに関する資料群を所蔵している機関や個人宅が想定される。よって、4ヵ年間の研究期間中、1年目は東北・関東地方、2年目は中部地方、3年目は関西・四国地方、4年目は中国・九州地方と重点調査地域を設定して、調査を行う。

(3)研究組織：研究代表者、連携研究者、研究協力者で、それぞれの専門性に応じて分担し、松浦武四郎関係の歴史資料の所在調査・収集を行う。連携研究者として、北海道開拓記念館学芸員・三浦泰之・東俊佑、北海道大学教授・佐々木利和、国文学研究資料館准教授・山田哲好、研究協力者として、松浦武四郎記念館学芸員・山本命、藤女子大学専任講師・松本あづさが参加する。

### 2. 研究の進捗状況

(1)札幌市中央図書館所蔵の松浦武四郎自筆『交友名簿帳』の研究から、20代後半から30代前半の時期における武四郎の交友関係、思想形成のあり方を、具体的に明らかにした。特に、江戸で志士や文人、学者などと幅広い交友を持っていたことや、勤王思想へ強く傾倒していたことが浮き彫りになった。

(2)3ヵ年間の資料調査を通じて、東北・関東・中部・関西・四国地方に所在する資料保存・利用機関及び個人宅において、武四郎関係資料を確認した。具体的な文書群として、仙台藩士十文字龍介関係資料（北海道立文書館）、伊勢出身の志士世古延世関係資料（東北大学附属図書館狩野文庫）、足利藩の御用絵師田崎草雲関係資料（草雲美術館）、水戸藩の学者豊田天功関係資料（茨城県立歴史館）、土浦藩の農政学者長島尉信関係資料（茨城県立歴史館）、東海道吉原宿の脇本陣鈴木香峰関係資料（富士市立博物館）、大宮町の町役人角田桜岳関係資料（富士宮市教育委員会）、尾張藩の陪臣水野正信関係資料（名古屋市蓬左文庫）、津藩の儒学者平松樂齋関係資料（津市教育委員会）、津の豪商川喜田石水関係資料（石水博物館）、伊勢神宮の神官足代弘訓及び松田雪柯関係資料（神宮文庫）、京都の文人画家富岡鉄齋関係資料（鉄齋美術館）、宇和島藩伊達家関係資料（宇和島伊達文化保存会）、などが挙げられる。

(3)上記の調査を通じて確認した武四郎関係資料は、主に書簡類や風聞留である。これらの資料から、幕末期、主に江戸で暮らしていた武四郎が入手した政治・社会情勢に関わる情報などを各地の知友に宛てて積極的に発信しているようすや、武四郎が発信した情報

が写しの形で広がっているようすなどを具体的に知ることが出来た。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

各年度の重点地域での資料調査が年度内に完結せずに、次年度へ持ち越しとなる場合もあったが、ほぼ順調に武四郎関係資料の悉皆調査を進めることが出来た。

### 4. 今後の研究の推進方策

(1) 4 ヶ年目の重点調査地域である中国・九州地方において、武四郎関係資料の調査を実施する。

(2) 4 ヶ年間の調査を通じて集めた資料の情報を整理し、分析を加えつつ、幕末維新期の政治史、社会史、情報史などの研究史を踏まえて、武四郎が有した交友関係や、武四郎関係資料そのものが持つ歴史的な意義を明確にしていく。

(3) 集めた資料の情報は、史料集的な形態にまとめ、広く活用を図る。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ① 三浦泰之・山本命「東海道の脇本陣 鈴木香峰と松浦武四郎—近世後期から近代初期に形成された知識人ネットワークに関する基礎研究：2009（平成21）年度調査報告—」、『北海道開拓記念館調査報告』第49号、99-148頁、2010年、査読無
- ② 三浦泰之「神宮文庫所蔵『雪柯斎雜纂』に収められた檜林昌建宛て松浦武四郎書簡の写しについて」、『松浦竹四郎研究会会誌』第56号、12-17頁、2009年、査読無
- ③ 三浦泰之・山本命「近世後期から近代初期に形成された知識人ネットワークに関する基礎研究—2008（平成20）年度調査報告—」、『北海道開拓記念館調査報告』第48号、91-112頁、2009年、査読無
- ④ 松本あづさ・三浦泰之「史料紹介 札幌市中央図書館所蔵 松浦武四郎自筆『交友名簿帳』」、『北海道開拓記念館調査報告』第48号、187-226頁、2009年、査読無
- ⑤ 山本命・三浦泰之「史料紹介 東北大学附属図書館狩野文庫所蔵 世古延世記録二八『辛酉年従正月至三月 多気志楼東信』」、『北海道開拓記念館調査報告』第48号、167-186頁、2009年、査読無

⑥ 東俊佑「北蝦夷地における直捌の展開と越後差配人の漁場開設」、『北海道開拓記念館研究紀要』第37号、165-200頁、2009年、査読無

⑦ 三浦泰之・山本命・東俊佑「近世後期から近代初期に形成された知識人ネットワークに関する基礎研究—2007（平成19）年度調査報告—」、『北海道開拓記念館調査報告』第47号、71-86頁、2008年、査読無

[図書] (計1件)

- ① 松浦武四郎生誕190年等記念事業実行委員会『松浦武四郎～時をこえてつなげる心～』松浦武四郎生誕190年等記念事業実行委員会、2009年、14頁